

新ビジネスマンとしての人間形成

桃山学院大学・太成学院大学兼任講師
松原経営経済研究所代表

松原 勇

1. はじめに

グローバル化が一段と進み、世界経済の国際化・情報化には目を見張るものがあります。

わが国は、戦後廃墟の中から不屈の精神で立ち上がり、経済大国に復興しながらも、バブル崩壊・企業倒産・リストラ等々幾多の混迷を極め、これから日本を担う若者達にとっても、先行きの見えない「不安な時代」になっています。ニート・フリーターの激増、若年層による常軌を逸した凶悪犯罪・いじめ・ネット自殺などがマスメディアを騒がせ「物で栄えて心で滅びる」世相の観があります。

今後の商業教育の中でも、荒廃していく若者達に、ビジネス全般の知識・技術の習得のみでなく、豊かな人間性・倫理観・道徳観を身に付けて、知性と感性を磨き、急進する21世紀に対応できる力強いビジネスリーダーの育成が大切ではないでしょうか。

2. 不思議な若者像

少年・少女達が数人集まって何をしているのかな？と見れば、お互いの会話もなくそれぞれがどこかに携帯メールをしています。これでは何のための集まりかなと侘びしく不思議に思います。現代の若者には、仲間はいても真の友人がいないと言われる現象でしょうか。

あくまでも私なりの若者観察像ですが、これから実社会のビジネスマンとして不適合な事項が、次のように浮かんできます。ただし、知識・教養・礼節ともに優れた、清々しい若者達もたくさんいることだけは付け加えておきます。

①「マナー・けじめ」ができていない ②「挨拶・返事・後始末」ができない ③言葉づかいが悪い—敬語ができない ④文章能力がない（読む・書く） ⑤姿勢が悪く、不健康な感じがする ⑥立ち居振る舞いができない（立ち方・座り方・歩き方等） ⑦新聞・雑誌を読まない（世の中のことを知らなすぎる） ⑧自分の心を磨くことをしない（思いや

り・感謝の心が薄い） ⑨勉強しない ⑩忍耐力がない ⑪メールのマナーが悪い ⑫拝金主義に陥っている ⑬すぐにキレル ⑭融通がきかない 等々
皆様はいかがお感じでしょうか？

3. 新ビジネスマンとしての心構え

人は何のために働くのか？

「無恒産者無恒心——孟子」これは、常に生くべき産業（なりわい）を持たぬものは人の常に所有する善心を持たないと倫理的な教えであり、これから社会に巣立つ若者諸君は「働くことの意義」を理解・自覚することが必須でしょう。

働くこととは「人間が社会で必要なものをつくる（創作）という喜びの動きであり、人間の肉体的な労働と心の動きに応じて、頭脳や精神状態を合致させながら、人間性の能力開発を高める活動」です。また、金儲け（給料）のためだけに働くのではなく、自分の欲望を満足させることと、人間らしいやり甲斐・生き甲斐をもって、社会生活を楽しく過ごすために働くといえるでしょう。心理学者・マズローの5段階欲求説では ①生理的な欲求 ②安全の欲求 ③帰属と愛情の欲求 ④尊敬の欲求 ⑤自己実現の欲求、と人間の欲求を分類しています。人は①→⑤へと動機付けられ、目標・理想・信念に向かってレベルアップするというヒューマニスティックな欲求説です。

次に、世界に羽ばたく日本人として、国際社会への対応能力の使命感を自覚することです。語学に精通するだけでなく、国際社会の動向、世界各国の事情なども把握して、一人ひとりがプロ意識をもって、顧客のニーズに応えられる人でなければなりません。

常に厳しい修練を重ね、自己の技量を磨いて心身を鍛える高潔な人が求められます。プロ意識に徹するためには自分の考えに固執せず、かたくなな態度を捨てて、新しい知識・技術・マナーを吸収して、自己改革を図り、求心力のあるコア人間が望まれます。一方、職場は社会の要請に応えるべく努力を重

ね、生き残りのために戦っています。したがって、大きな企業になればなるほど、個人には非情・冷酷です。頼りになるのは自分自身で、ここに自己啓発の必要性が生まれ、自主的に自己の能力を高めて強い人間性を持たなければなりません。自己啓発の方法としては、①書物、新聞を徹底して「読む」②社説をまとめて大意を「書く」③創意工夫して積極的に「話す」などがあります。

21世紀に職場が求める人材とは！

①国際的な視野での思考力 ②科学・技術の理解力
③目標に向かっての行動力 ④企画力・創造力・独立心
⑤リーダーシップ・忍耐力・協調性 ⑥やる気・根気・負けん気
⑦チャレンジ精神 ⑧誠実・謙虚・清潔 ⑨目配り・気配り・思いやり
⑩仕事に対する愛と情熱、などが要請されます。

したがって、「読む・書く・話す」の3要素をしっかり習得することはビジネスマンとしての基礎・基本となり、必ずや将来の仕事に反映されます。

「玉磨かざれば光りなし！」

また、ビジネスマンにとって身体が資本であり、唯一の財産でもあります。「健康に優るものはなし」生きるうえの第一条件であり、日々の心身の鍛錬が大切です。これはストレスやスランプに陥ったとき、その重圧を排除していくタフな性格も作り上げることになり、ビジネス生活を豊かにしてくれるでしょう。

スランプ解消法として！

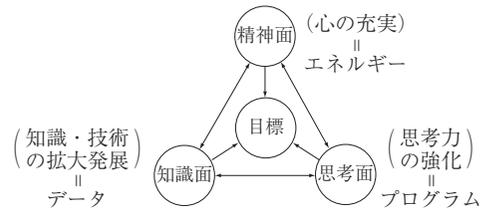
①「ハイ」の明るい返事を繰り返すと、自然と明るい気分や爽快感もでて、動作も敏捷になる ②プラス思考をもつ ③リズムを変える ④「RICH」に生きる一心（豊かな心）は鍛錬すれば、自分でコントロール（制御）できるようになります。Rはリラックス・Iはイメージ・Cはコンセンレーション・Hはハーモニー、この4つの言葉を生かしてプラス思考でスランプ解消に役立てていただきたいと思います。

4. 脳力開発（能力の根幹は、脳力開発にある）

「能力」とは、物事をなし得る力で、「脳力」は、脳の発揮する力を意味します。自分の脳力を発揮させることは、単に「頭がよくなる」という部分的な問題ではなく、自分の心・自発性・創造性・決断力・表現力・思考力などの人格的な生き方のすべてにまで、「総合的な実力」を身に付けることになる

でしょう。従来の教育は、コンピュータ風にいえば、知識偏重型（データ）であり、特定な面に偏りがちではと考えられます。単なる活字の詰め込みという「暗記方式」であったため、実社会では応用がきかないビジネスマンの傾向になるのではないのでしょうか。

そのため次のように精神面を中心として、思考面・知識面が相互に結ばれた「三面均等の人づくり」を目指す、魅力と価値のある人間形成の教育が大切ではと考えます。



三面均等の人づくり

脳力開発の方法としては、脳細胞の活性化であり「誰でもできる」方法です。目標（指針）に対して

- 行動せよ…実践
- 整理せよ…修正
- 反復せよ…継続

以上の3つのパターンをいつでも・どこでも・地道に・忠実に・継続することが脳力開発をする基礎・基本となります。

また、自分の心は自分でコントロールできるようになり「人は考えている通りの自分になれる」と言われます。自分ができるんだと思えば、心にゆとりができて本当にできるようになり、自分に対してプラスイメージを持ち続けるならば、プラス思考の人間になっていきます。マイナス思考（嘆きの人生）であれば、プラス思考（楽しみの人生）に柔軟に転換できるよう「基礎習慣づくり…3面11指針」(p.23表参照)をやり甲斐・生き甲斐に活用していただければ幸いです。

5. 人間力を育む（心の充実）

私事で僭越ですが、現在商業科教育法など4科目を担当している講義の中で、学生達に少しでも人間力・自己教育力を養ってもらえればと、創意工夫をしながら、次のことに務めております。

●「礼によって始まり、礼によって終わる」

リーダーの号令のもと、人間の生き方の基本（はじめ）である挨拶（礼）を全員起立とする。例えば、「お願いします」「ありがとうございました」

基礎習慣づくり…3面 11 指針

| ↓<楽しみの人生> | <嘆きの人生>↓ |
|---|---|
| 第1面 精神的姿勢の確立 <エネルギー> | |
| 1) 自分で主体的にやる姿勢 2) いつも進歩発展を目指す姿勢 3) 他人の利益もはかる姿勢 | ・人頼りの姿勢 ・現状に甘んずる姿勢 ・自分だけよしの姿勢 |
| 第2面 思考方法の整備 <プログラム> | |
| 4) 常に中心点を明らかにし、中心・骨組みで考える習慣 5) 常に両面とも考え、どちらが主流かも考える習慣 6) 立場観点を整理し、多角度から考える習慣 7) 確定的要素から出発して考える習慣 8) 行動のつながりで具体的に考える習慣 | ・中心骨組み、目的・目標などの不明確な混乱した習慣 ・物事の片面一面しか考えない習慣 ・一方的角度からしか考えない習慣 ・確定的でない要素に振り回される習慣 ・概念のつながりだけで抽象的に考える習慣 |
| 第3面 知識・技術の拡大発展 <データ> | |
| 9) 知識・技術はすぐに使う習慣 10) できるだけたくさんの物事に首をつっこむ習慣 11) できるだけたくさんの人に接触する習慣 | ・ペーパー知識・技術のままに孤立させておく習慣 ・なるべく余計な事に関心を持たないとする習慣 ・少数の人とつき合うだけで、交際範囲を広げまいとする習慣 |

(城野能力開発学・情報判断学より)

●1分間の「イメージトレーニング」を行う

学生のそわついた心を落ち着かせ、正しい姿勢でサア行こう！の意識を持たせる（モチベーション）。

●講義の合間には、興味・関心をよび起こす話題を提起

ホットな時事問題・動植物・人間の生き方などを教材に、全員参加の議論を展開。また、偉人達の名言・人生訓・仕事訓などを引用して、学生達の気分を奮い立たせ人生観や生きる力を感じてもらいます。例「花も実も根の力！」

——君たちは若木、大きく根を張って、枝を伸ばして花を咲かせるために、栄養が必要。嵐に負けないしっかりとした大木になるように、勉強すなわち自己を磨き鍛えること。将来、どのような花が咲くかは君たち次第！

「努力は天才を凌駕する！」「草莽崛起の精神」など、これから無限大に伸びていく若者たちにピッタリの言葉で、学生たちの目も輝いてくるようです。

●3分間スピーチで度胸と自信をつける

(職業指導科目のみ)

社会生活では、コミュニケーション能力が問われます。リーダーの司会進行により自由課題で数人

(順番制)に、前に出て壇上で話をしてもらいます。最初、緊張やあがったりしていた人も数回繰り返すうちに、私や学生同士の評価とともにウキウキするような全員の拍手を心の糧に、堂々とした見事なスピーチができるようになります。これは、度胸と自信につながり、今後の就職活動を乗り越えて、新ビジネスマンとしての活躍の原動力になるでしょう。

●集中心を養う

講義の最後に、一人の学生に講義内容の概略を手短に発表してもらいます。これは、誰に当たるかわからないので講義に集中せざるを得ません。

理解力・表現力などの育成にも役立ち、私語・居眠りなどの防止にもなります。

6. まとめ

「企業は人なり」「経営は人なり」と言われるように、職場での「よりよい人間関係をつくること」はビジネスマンにとって最も重要といえるでしょう。

進化するIT（情報技術）や経営革新時代を生き抜くためには、豊かな人間力が不可欠です。人間の価値は、地位・名誉・財産などで決まるのではなく、人間性すなわち人格です。

「人間力を磨き鍛える」ための道標として！

- ①よく勉強する…情熱を持って向学心に燃える
- ②勤勉である…努力は人を裏切らない、勝ち運をよぶ力の結晶となる
- ③信念・理想をもつ…信念は目的達成のエネルギーであり、理想は人生を気高くする
- ④徳を積む…道徳・倫理観をもち、人を感化する人格（力）は人徳を生む
- ⑤よき師を見つける…冷静に確固たる信念をもち、前向きな心を教えてくれる
- ⑥毅然とした態度をもつ…何事にも精通して、いつも堂々とした姿勢である
- ⑦感謝の心をもつ…感謝はストレス社会を生き抜く、唯一の知恵である
- ⑧使命感をもつ…自覚と責任をもち、約束を果たし、与えられた任務を全うする 等々

21世紀に羽ばたく新ビジネスマンの若い力は、これからの日本社会を支える宝物です！

為せば成る 為さねば成らぬ なにごとも
成らぬは人の 為さぬなりけり

—— 上杉 鷹山